

【目指す姿】

進んで外国の生活や文化に親しんだり、外国語に触れたりしようとする子

英語教育・国際理解

	評価項目	評価基準	1学期			2学期		
			評価結果	評価	考察及び改善策	評価結果	評価	考察及び改善策
成果目標 チャレンジ1	英語を使ってコミュニケーションをしたり、外国のことを学んだりすることが好きと答える児童を増やす。	児童・保護者アンケートで肯定的評価 A：80%以上 C：60未満  (児童アンケート) 「英語を話したり、外国のことを学んだりすることは楽しいですか。」 1学期：3～6年 2学期：1～6年  (保護者アンケート) 「お子さんは、外国のことに興味をもち、国際科の学習に進んで取り組んでいますか。」	児童89.5% 保護者70.4%  児童保護者平均80%	A	・児童、保護者ともに肯定的評価は昨年度より上がっている。 ・児童よりも保護者の評価が低いので、保護者へのアピールが必要である。 ・2学期は低学年も国際科が始まるので、楽しく学べるような活動を工夫していく。	児童88.7% 保護者72.0%  児童保護者平均80.4%	A	・保護者の肯定的評価は1学期と比べ少し上がった。 ・児童の肯定的評価は80%以上で比較的高い結果となっている。 ・今後も英語専科、ALT、担任で連絡、打合せをしっかりと行い、児童が生き生き、楽しく学べる授業を行っていく。
	英語を使って楽しくコミュニケーションをとったり、外国の文化や習慣について学んだりする授業を実践する。	職員アンケートで肯定的評価 A：80%以上 C：60%未満  (職員アンケート) 「児童が進んでコミュニケーションを取ろうとするような授業や外国の文化や習慣に触れるような活動を実践することができた」	職員88.9%	A	・4年生以上は英語専科、ALTを中心として授業を進めていくことになるが、授業に直接関わらない担任との情報交換も密に行い、授業改善に生かして行く。 ・1～3年生は担任が中心となって授業を進めていくので、ALTとの打合せをしっかりと行い、楽しい授業を心掛ける。	職員100%	A	・4年生以上は英語専科とALTが打合せや時数調整を行いながら、言語活動の充実に取り組むことができた。 ・1～3年生は、担任とALTが打合せを行い、児童が楽しく英語活動ができるような授業展開を心掛けた。 ・今後も単元学習のゴールを意識して、児童が生き生きと言語活動に取り組めるような授業展開の工夫を図っていく。 ・高学年は、話す活動、書く活動も重点的に行っていく。
	・保護者・地域に積極的に発信活動を行い、地域の国際科に対する意識の向上、理解の向上を図る。	職員アンケートで肯定的評価 A：90%以上 C：70%未満  (職員アンケート) 「学年便りやHPを通して、国際科や国際理解教育について、学期に1回以上、家庭、地域に発信することができたか。」	職員62.5%	C	・低学年は2学期に国際科の1回目が始まるので、その時の様子をおたよりで紹介する。 ・3年生以上は、2学期の授業の中で楽しそうな活動を1回でよいので、おたよりで紹介する。	職員64.3%	C	・1～3年生は、担任がメインとなって授業を行っているので、学年だより等で発信しやすいが、高学年は英語専科が中心となって行っているため、学年だより等で紹介しづらいことがあるので、高学年も学期1回は、おたよりで紹介するように努力する。 ・国際交流科会の様子については全学年がおたよりで保護者に発信できた。